

あんな本・こんな本

2022年9月28日発行 No.87

ボランティアによる新着図書・資料案内

この号では女性教育情報センターに2022年2月～6月に新しく受入れた資料の中から、ボランティアが選んだ本を紹介し、新着の全資料は下記の文献情報データベースからご覧いただけます。

https://winet2.nwec.go.jp/bunken/cgi/newbook_cal/opac_newbook_cal.cgi

読んでみました

時代のカナリア：今こそ女性たちに伝えたい！

湯川れい子著；集英社 2022年

[リストNo.1]



元気の出る本だ。著者の湯川れい子さんは10代のころからジャズ評論家、作詞家、DJとして活躍してきた。昭和11年生まれ、「生まれた時には戦争だった」。父は海軍の軍人でモダンな心の人だったが昭和19年急死。母は武士の血を引く気丈な人で、終戦の翌日、父の形見の短刀を前に小学生の著者に「自決」の作法を教えたという。

戦後「自由」を手にした湯川さんはロールモデルもないまま、自分のやりたいことを一直線に目指し、道を切り拓いてきた。それがジャズの世界だった。

彼女の生き方はすべてが果敢な直球勝負だ。女性がほぼゼロだったジャズ評論の世界で、想像を絶するセクハラやパワハラをはねのけ、ビートルズやエルヴィス・プレスリーへの単独インタビューを果たす。そして、魅力的な人々との出会い、なかでもオノ・ヨーコとジョン・レノンを巡るエピソードには感動する。

湯川さんは2022年に86歳を迎えた。「ダメなものはダメ！」という姿勢を貫き、平和や環境の問題に関心を寄せて臆せず政治的な発言をし、また、ボランティアとして様々な社会貢献も果たしている。

かつて炭鉱では構内の空気汚染を検知するためにカナリアの籠が吊るされていた。著者は、坂本龍一さんの「アーティストは炭鉱のカナリアだ」という言葉に共鳴し、世の中の＜空気＞の悪化に敏感であろうとする立場からメッセージを発信し続けている。 [YK]

オトメゴコロスタディーズ：フィクションから学ぶ現代女子事情

稲田豊史著；サイゾー 2022年

[リストNo.38]

サブタイトルどおり、約60本の映画や小説、楽曲など様々なジャンルのフィクションに登場する女性の行動や思考から、女心を解き明かした本である。「東京ラブストーリー」に「アナと雪の女王」、朝ドラの「カーネーション」に西野カナの「トリセツ」などなど、自分が知っている作品もあったが、殆どの作品は内容を知らないものばかり。

1作品3ページ程度でまとめられ、登場人物の性格や、置かれた境遇、社会背景などを分析し、ヒロインを通して著者が世の女性を理解しようとしているのが面白い。著者が作品から得た教訓は男女の心理や行動の違いを的確に捉えており、「なるほどねえ」と共感せずにはいられなかった。

読んでいて、一つ気がついたことがある。それは、女心を語る時、女性の喜怒哀楽や社会的役割意識からくる苦悩は、男性との関係性を抜きには語れないということだ。良くも悪くも両方の性がある世の中は成り立っているのだな、と改めて感じた。

女心の理解だけでなく、まだ出会っていない面白い作品に巡りあうために読んでみてはいかが？ [SM]



アウシュヴィッツのお針子

ルーシー・アドリントン著；宇丹貴代実訳；河出書房新社 2022年

[リストNo.3]



「お針子」という言葉に魅かれて手にした本。悪名高きアウシュヴィッツ収容所に、お針子がいた？どんな人かは想像が付きたけれど、何のために？

この本は、ナチス幹部家族らの服を仕立てることで生き残った 25 人のユダヤ人女性たちの証言に基づくドキュメンタリーだ。

前半では、貨車で輸送され、生死の分岐点に至る様子や、生きることを許されても言葉にし難い凄惨な思いを余儀なくされる少女たちの体験談が次々と突きつけられる。人間はここまで冷酷になれるのかと思うと、吐き気さえしてきた。

後半では、死と隣り合わせにいらながらも、ガス室に送られることなく生き延びた彼女たちの精神を支えたものについて語られている。お針子になった彼女たちが縫っていたのは、ユダヤ人から略奪した衣類でつくる綺麗な普段着で、時にはイブニングドレスもあったという。そんな屈辱のなかでも誇りを持ち、仲間と繋がることを忘れなかった。僅かな食糧も分け合い、支え合って、生きることを諦めなかった。

読んだのは猛暑日だったが、エアコンのスイッチを入れ忘れてしまうほどの衝撃の記録だった。 [MN]

シングルマザー、その後

黒川祥子著；集英社 2021年

[リストNo. 25]

本書を読んで私はどうしようもない焦燥感で一杯だ。皆さんに是非とも教えてほしい。どこから解決の糸口を見つけたらいいのか。何をしたらいいのか。

著者は、女性の労働問題の根源が現行法律にある、もっと言えば日本の女性労働の歪みの根源が私たち女性を苦しめているのだということを訴えている。母性を全うして出産し、子育てをし、自分のキャリア形成を図ることに日本という国は前向きではない、と訴えている。出産、子育てをしながら女性が働いていくにはどうしたらいいのかが具体的に書かれている。手に取って読んでみてほしい一冊だ。

[JK]



うらやましい孤独死：自分はどう死ぬ？家族をどう看取る？

森田洋之著；フォレスト出版 2021年

[リストNo. 28]



「孤独死」という言葉のイメージから、それが「うらやましい」と形容できるとは、想像もしていなかった。

現役医師である著者は、当初、病院で高齢者の治療にあたっていたが、最期を看取った時、患者のためにこれで良いのかと悩んだ。そんな時、財政破綻した夕張市で病院閉鎖後の医療を請け負った村上医師の著書に出会った。村上医師は、予防医療や終末期医療を提供するにあたり、病院医療に頼ることなく、真の患者中心の地域医療を実践していたのだ。早速連絡を取った著者は、ほどなく夕張に赴任することになり、「うらやましい孤独死」を目の当たりにする。

夕張では、たった 19 床の市民診療所しかないため、病院での終末期医療は殆どできない。ある日、高齢の女性が、一人暮らしの実姉のソファーでの死を発見する。死後一週間ほど経っていたにも関わらず、「うらやましいねえ。家で好きな暮らしをしていてピンピンコロリ。私もそうになりたい。」という言葉に、著者は、誰かに看取ってもらったか否かではなく、それまでどう過ごせたかが、納得できる死を迎えるうえで重要であると気づく。

その後、鹿児島に移り、ベッドに縛り付ける治療ではなく患者の思いを大切にする医療を続けている。それには、次の 3 つの要素が欠かせないと言う。①天命を受け入れるみんなの意識②高齢者の生活を支える医療・介護の構築③高齢者の生活を支える様々な絆

生活が孤立しないこと、が課題だと著者は訴える。私が住む街でも、行政が「認知症の高齢者を地域で見守りましょう」と呼び掛けているが、高齢化が進む今こそ地域住民の支え合いが大切だと感じた。 [CO]

2022年2月～6月に情報センターが新たに受入れた図書からボランティアが選んだ本です。

	書名・副題 / 著者・編著者名	出版社	出版年月	請求番号
* 1	時代のカナリア：今こそ女性たちに伝えたい! 湯川れい子著	集英社	2022.1	159.6/J48
2	はじめての西洋ジェンダー史：家族史からグローバル・ヒストリーまで 弓削尚子著	山川出版社	2021.11	230/H16
* 3	アウシュヴィッツのお針子 ルーシー・アドリントン著；宇丹貴代表訳	河出書房新社	2022.5	234/A96
4	真似のできない女たち：21人の最低で最高の人生 山崎まどか著	筑摩書房	2022.4	285.3/Ma43
5	人生の達人・堀文子の生き方 堀文子, 中島良成著	中央公論新社	2021.11	289/J52
6	難民に希望の光を：真の国際人緒方貞子の生き方 中村恵著	平凡社	2022.2	289/N48
7	ライトニング・メアリ：竜を発掘した少女 アンシア・シモンズ作；布施由紀子訳；カシワイ絵	岩波書店	2022.2	289/R12
8	ルース・ベイダー・ギンズバーグ アメリカを変えた女性 ルース・ベイダー・ギンズバーグ, アマンダ・L・タイラー著；大林啓吾 [ほか] 訳	晶文社	2022.2	289/R89
9	聖子：新宿の文壇BAR「風紋」の女主人 森まゆみ著	亜紀書房	2021.11	289/Se17
10	私が進化生物学者になった理由 長谷川真理子著	岩波書店	2021.12	289/W45
11	薬草ハンター、世界をゆく：義足の女性民族植物学者、新たな薬を求めて カサンドラ・リア・クウェイヴ著；駒木令訳	原書房	2022.3	289/Y16
12	女王さまのワードローブ：イギリス国民に愛されつづける女王エリザベスの物語 ジュリア・ゴールディング文；ケイト・ヒンドレー絵；前沢明枝訳	BL出版	2022.2	289.3/O35
13	妻六法 森公任, 森元みのり著	扶桑社	2022.2	320/Ts72
14	セクシュアリティとジェンダー 落合恵美子, 森本一彦, 平井晶子編	有斐閣	2022.3	361.6/R37
15	「女子」に選ばれる地方：十六総合研究所提言書2022 十六総合研究所編集委員会著	岐阜新聞社	2022.4	361.7/J78
16	がんばりすぎないお仕事復帰BOOK：産休・育休中の不安がスーッと解消される 藤井佐和子, mamari監修	KADOKAWA	2022.3	366.3/G19
17	女性の仕事と日本の職場：均等法以後の「職場の雰囲気」と女性の働き方 寺村絵里子著	晃洋書房	2022.2	366.3/J76
18	不安定雇用の女性研究者：研究をめぐるジェンダー問題 日本科学者会議編	日本科学者会議	2022.4	366.8/F51
19	フェミニズムがひらいた道 上野千鶴子著	NHK出版	2022.5	367.2/F18
20	ジェンダーと歴史学 ジョン・W.スコット著；荻野美穂訳	平凡社	2022.5	367.2/J36
21	男らしく、女らしくがいいのか？：ジェンダー NHK Eテレ「u&i」制作班編；西田征史原作；鈴木友唯絵	ほるぷ出版	2022.2	367.2/O86

22	ジェンダー研究と社会デザインの現在 萩原なつ子監修；萩原ゼミ博士の会著；森田系太郎編	三恵社	2022.3	367.21/J36
23	失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック 新聞労連ジェンダー表現ガイドブック編集チーム著	小学館	2022.3	367.21/Sh79
24	母親になって後悔してる オルナ・ドーナト著；鹿田昌美訳	新潮社	2022.3	367.3/H14
* 25	シングルマザー、その後 黒川祥子著	集英社	2021.12	367.4/Sh62
26	ジェンダーで読み解く男性の働き方・暮らし方：ワーク・ライフ・バランスと持続可能な社会の発展のために 多賀太著	時事通信社	2022.3	367.5/J36
27	むずかしい女性が増えてきた：あたらしいフェミニズム史 ヘレン・ルイス著；田中恵理香訳	みすず書房	2022.5	367.5/Mu99
* 28	うらやましい孤独死：自分はどう死ぬ？ 家族をどう看取る？ 森田洋之著	三五館シンシャ	2021.3	367.7/U85
29	エリンとみどり：ジェンダーと新しい家族の形 エリン・マクレディ、もりたみどり著	天夢人	2022.2	367.9/E67
30	初めて「性」のことを子どもに伝えるパパとママのための教科書：我が子を守るために教えるべきこと 川村真奈美著；アベナオミイラスト	学研プラス	2021.8	367.9/H16
31	「LGBT」ヒストリー：そうだったのか、現代日本の性的マイノリティー 永易至文著	緑風出版	2022.3	367.9/L59
32	元女子、現男子。：忘れたい過去もある。けど、それを含めて僕だと気づいた。 木本奏太著	KADOKAWA	2022.3	367.9/Mo84
33	親子で考えるから楽しい！ 世界で学ばれている性教育：安全、同意、多様性、年齢別で伝えやすい！ ユネスコから学ぶ包括的性教育 上村彰子構成・文；大久保ヒロミまんが&イラスト	講談社	2022.3	367.9/O94
34	「障害」ある人の「きょうだい」としての私 藤木和子著	岩波書店	2022.4	369.2/Sh95
35	黙殺される教師の「性暴力」 南彰著	朝日新聞出版	2022.3	374.3/Mo21
36	私がヤングケアラーだったころ：統合失調症の母とともに 林真司著	みずのわ出版	2021.12	598.4/W45
37	ファンシー・ピクチャーのゆくえ：英国における「かわいい」美術の誕生と展開 佐藤直樹著	中央公論美術出版	2022.3	723/F14
* 38	オトメゴコロスタディーズ：フィクションから学ぶ現代女子事情 稲田豊史著	サイゾー	2022.4	778/O86
39	アスリートたちが変えるスポーツと身体の未来：セクシュアリティ・技術・社会 山本敦久編	岩波書店	2022.3	780/A93
40	ローズ姫と黄金のめがね ロウリー・ムーア文；ナタリー・オーウェン絵；中井はるの訳	早川書房	2021.10	933/R79



*印の本は

読んでみました

に感想文を掲載しています。

連絡先：〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
国立女性教育会館（NVEC）

ボランティアルーム内「あんな本こんな本」担当